

道徳で

実践例編

ピーフォーシー

探究の対話(p4c)を始めよう

～対話の力と探究心を育もう～



目次

「子供が考え、議論する道徳科」を拓く p4c	2
実践例	
小学校 低学年(2年) 「学きゅうえんの さつまいも」	6
中学年(3年) 「一りん車にのれた」	8
高学年(6年) 「手品師」	10
中学校 1年 「思いやりの日々」	12
2年 「我、ここに生きる」	14
3年 「ハッチを開けて、知らない世界へ」	16
Q & A	18

「子供が考え、 議論する道徳科」 を拓くp4c



p4cへの理解を深めよう

p4cとは、philosophy for children（子供の哲学）を念頭においた教育理念です。平成25年度から、宮城教育大学の教員を中心に探究の対話（p4c）として試行的な実践を積み重ねてきました。

p4cのエッセンスは、探究の源である「問い」を大切にすることです。子供と教師が互いの顔を見ながら、対話を通して問いを深めていきます。「問い」は、子供のなかに芽生えた疑問や関心から生まれます。その「問い」に対する答えは、決して一つではありません。簡単に結論がでない「問い」について、対話を通して、自分とは違う意見や考え方を知り、多面的・多角的に自己の考えを深めていきます。そして、「主体的・対話的で深い学び」となるのです。

また、何を話しても、周りの人がしっかりと話を聞いて受け止めてくれるという対話の場を経験していくことで、子供のなかに安心感（知的セーフティ）が育まれていきます。他者と積極的にかかわり、道徳的価値の意味について探究し、対話する道徳への質的転換に向けて、p4cを実践してみましょう。

p4cを用いた道徳の授業の基本的な流れ

1. 教材を読む

教材文を読み、事のてん末を確認する。

2. 全員が問いを立てる

教材文のテーマを提示する。疑問に思うことや不思議に思うことをもとに全員が「問い」を立てる。

3. 問いを選ぶ

対話のきっかけとなる初めの「問い」を多数決で選ぶ。

4. 探究の対話を行う

発言を丁寧に聞き、掘り下げて対話を深めていく。
対話にはコミュニティボール（→p.4-5）を使用する。ボールを持っている人だけが話をする事ができ、ほかの人は黙って話を聞く。話し終わったら、まだ話していない人にボールを回していく。話せないときはパスをしてもよい。相手を傷つけるようなことは言わない（知的セーフティを大切に）。適宜「WRAITEC（ライテック）」を使用する。

5. 振り返る

みんなの話を聞いたか、どのようなことを考えたかなどの視点で授業を振り返る。

「WRAITEC（ライテック）」 を使って問いかけよう

「WRAITEC（ライテック）」とは、授業中に使える対話ツールキットで、新たな問いかけのきっかけとなる7つのフレーズの頭文字を並べたものです。当たり前に捉えている「もの」「ひと」「こと」をあえて問うことで、多面的・多角的に考えることができます。

また、教師が活用することで、子供たちは自然と「WRAITEC」を使って考えるようになっていきます。問いを立てるとき、考えを深めるとき、掘り下げるための問いを出すときなど、「WRAITEC」の7つのフレーズを意識的に使ってみてください。

W

What do you mean?

【意味】 どういう意味かな？



R

Reason

【理由】 なぜそう思うの？



A

Assumption

【前提】 それって当たり前かな？



I

Inference / If ~then~

【推論】 もし～なら～ということになる？



T

True

【真実、事実性】 本当にそうかな？



E

Example / Evidence

【事例、証拠】 例えば？ 証拠は？



C

Counterexample

【反例】 でも、こういうこともあるのでは？



“コミュニティボール”で 信頼し合える場を生み出す



● コミュニティボールとは

コミュニティボールとは、対話に参加する子供たち全員で作る毛糸のボールのことです。p4cは、このボールを持っている人だけが話ことができ、ほかの人は黙って話を聞くというルールで行います。

● なぜみんなで作るのか

p4cは、毛糸のボールをみんなで作るところから始まります。参加者全員が共同作業してできたボールなので、愛着も生まれ、コミュニティを大切にしようという気持ちが芽生えます。互いを認め、信頼し合える場を生み出す活動だからこそ、みんなの気持ちが込められたコミュニティボールが必要なのです。

● なぜ毛糸なのか

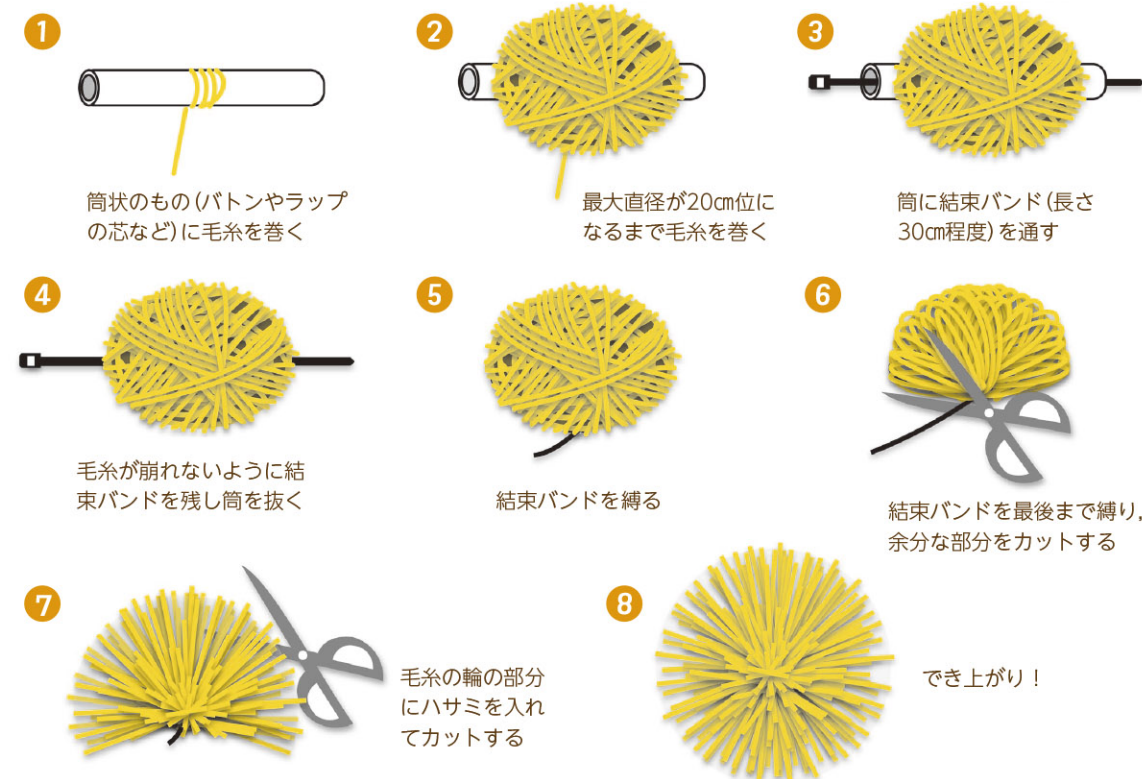
毛糸の柔らかな手触りは、話そうとする人の気持ちを和らげる効果があります。また、カラフルな見た目は、聞く人の視線をボールに集める効果があり、話が苦手な子供でも話しやすい雰囲気になります。



● コミュニティボールの作り方

- ①自己紹介をしながら、みんなでボールを作っていきます。
自己紹介では、「自分の名前」、「好きな遊び」、「いま頑張っていること」などを話します。
- ②自己紹介が終わったら、次の人にボールを渡します。右隣の人は毛糸を持ち、ボールを作る人が巻きやすいように毛糸を引き出してあげます。

<作り方の手順>



p4cを練習してみよう

① 環境を整える

リラックスして話し合うために、互いの顔が見えるように円座になります。いすを使用してはいけません。



② ルールを確認める

- p4cのルールを確認しましょう。
- ・コミュニティボールを持っている人だけが話せる
 - ・まだ話していない人や、この人の話を聞きたいと思う人にボールを回す(ボールは下から投げる)
 - ・考えが浮かばないときは次の人にパスすることができる
 - ・相手が傷つくようなことを言わない(知的セーフティを大切にする)
 - ・WRAITECを使って考えを深めていく



③ ボールの回し方を練習する

完成したボールを実際に投げてみます。友達の名前を呼んで、その相手に届くようにボールを下から投げます。ボールをキャッチした人は、次の人の名前を呼んで、下からボールを投げます。



④ 問いに答える練習をする

「もし～だったら (If ~ then ~)」という問いで練習してみましょう。「もし～だったら、あなたはどうしますか？ どうしたいですか？」という問いを出し、数名の発言を例にします。発言するときは、必ず理由も話してもらうようにしましょう。



小学校 低学年 実践例

内容項目

親切, 思いやり B-(6)

主題名

親切にするよさ

教材名

「学びゅうえんの さつまいも」(新訂 新しいどうとく 2年)

ねらい

「探究の対話」を通して、身近な人々に温かい心で接し、進んで親切にしようとする心情を育てる。



教材文と探究の対話(p4c)

「学びゅうえんの さつまいも」は、友達の親切による主人公の心情を中心に構成されている。学校を休んでも掘りに参加できなかった残念な気持ちから、うれしい、お礼を伝えたい気持ちの変化は、容易に読み取れるであろう。「親切にするとはどういうこ

となのか」について対話をし、相手を思い、自分から優しく親切にすることが良好な人間関係につながることに気づかせたい。本当の親切とは「だれかのためになることをしたい。」という思いが行為となって表れることについても考えさせる。

事前学習

問いを立てる

1 「親切」について問いを立てる

次の授業では、「親切」について学習します。「親切」についてみんなで話し合いたいこと、疑問に思っていることをメモに書きます。「なぜ」「どうして」などのWRAITECを使ってみましょう。

ポイント・留意点

1 1週間ほどの期間を取り、各自が自由に問いを立てることによって、自分の生活を振り返りながら、「親切」についての問題意識を高めることができる。

本時学習

問いを選ぶ

1 授業で扱う「問い」を多数決で決める

ワンダーボックスの中にたくさんの問いが入っていました。4つ選んでおきましたので、この中から多数決で、問いを決めましょう。**4つ提示する**

選ばれた問い 「なぜ、人は親切にするのか」

教材文を読む

1 「学びゅうえんの さつまいも」を読む

電子黒板の写真をみましょう。
(生活科におけるサツマイモ収穫の画像を映す。)
「学びゅうえんの さつまいも」を読みます。
(指導書の場面絵を映す。)

ポイント・留意点

1 教師は、子供がワンダーボックス(→p.22のQ&A9)に入れた問いの中から、内容項目との関連や問いの傾向などを把握し、ねらいに沿った問いを4つほど選んでおく。

多数決をとることでみんなで選んだ問いとなり、主体的に対話に参加するという意識を全員にもたせることができる。

1 収穫の喜びを想起させるために、学級園で育てたサツマイモの収穫時の画像を提示し、生活科と道徳科の学習内容を関連づける。また、子供が集中して教材文の内容を理解できるように、教師は指導書の場面絵を映しながら、教材文を範読する。

教材文を読む

2 教材文の内容を確認する

- ・みち子さんはいも掘りができず残念に思っているのですね。
- ・よし子さんは、早く治ってほしいと心配していますね。
- ・よし子さんのお見舞いの言葉と励ましの手紙で、みち子さんは、クラスのみんなによしさんの親切がうれしかったことを伝えたいと思ったのですね。

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

「セーフティ」とは何ですか。その意味は？

2 今日の問いを立てた人から発言する

今日の問いをみんなで読みます。では、なぜこの問いを立てたのか、また、あなたの考えも話しましょう。

3 考えを聞いてみたい人に、コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「先生はこの学校に転任してきて、いろいろな先生方に親切にしてもらいました。皆さんも、例えばこんなこと、という経験はあるかな。」

掘り下げの問い②

子供「もし親切にされたら、どう思いますか。」

掘り下げの問い③

教師「必ず親切にしなければならないのでしょうか。」

掘り下げの問い④

子供「親切にしたほうがいいときと、しないほうがいいときがあるのかな。」

振り返る

1 ノートに書く、発表する

今日の対話から心に残った言葉はありますか。新しく発見したこと、考えたこと、これからこうしたいと思うことをノートに書きましょう。

2 全体で振り返りを行う

友達の話をよく聞きましたか。考えを深めることができましたか。安心して話すことができましたか。このことについて、3段階で振り返ります。

評価の視点と方法

- 「親切にするとはどういうことか」について自分の考えを深めることができたか。(発言、ノートなど)
- 相手を思い、自分から親切にしようとする意欲をもつことができたか。(ノート、感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

2 みち子を思うよし子の心遣いや行為から、親切にされた側の気持ちの姿を読み取らせる。また、親切な行為をしたよし子の視点についても考えさせる。
対話の中で、子供が教材と関連づけながら考えを深めることができるようにする。

1 p4cが大切にしている「セーフティ」の意味を子供と共に確認する。

3 「人が親切にするのは、優しいことをすると、優しくしてもらえるからではないか」という考えを受けて、「相手にうれしく思われるとこちらもうれしくなる」「相手に笑顔になってほしいから」「一人ではできないことが、手伝ってもらえるとできるようになってうれしくなる」などが出される。そこで、教師が掘り下げの問い①を出し、各自が自分のことを具体的に話すよう促す。身近に起きた例を挙げていくことで、掘り下げの問い②が生まれ、「親切な行為」がもたらす互いの心情面や良好な人間関係に気づいていく。さらに掘り下げの問い③によって、反例を挙げながら、親切にするときに大切なことは何か、についての意見も出てくる。掘り下げの問い④は、より具体的な場面をもとに親切とは、相手を思う気持ちから起こる行為であることを深く考え、互いを思いやる気持ちの大切さを共有することになる。

1 対話を通して気づいたり発見したりしたことや、新しく生まれた問いなどを記録する。

内容項目

希望と勇気、努力と強い意志 A-(5)

主題名

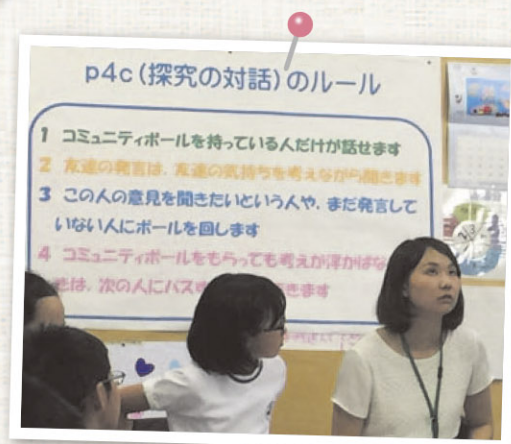
目標に向かって

教材名

「一りん車にのれた」(新訂 新しいどうとく 3年)

ねらい

「探究の対話」を通して、自分でやろうと決めたことは、辛抱強くやりぬくとする態度を育てる。



教材文と探究の対話(p4c)

「一りん車にのれた」は、主人公の「ゆきさん」が一輪車に乗れるまでの出来事と心の動きが描かれている。一度は挫折するものの、クラブ見学が再び努力するきっかけになり、友達のアドバイスや支えがあって目標を

達成できたという経緯は、経験と照らし合わせることができる内容である。挫けてしまうことやもう一度努力することについて考え、対話することで、辛抱強くやりぬくことについても思いを至らせることができる。

事前学習

教材文を読む①

1 家庭学習で教材文を読む

次の授業では、「もくひょうにむかって『一りん車にのれた』」を学習します。各自読んで分からない言葉などがあったら聞いてください。

問いを立てる

1 問いを立てる

教科書を読んで考えたことや思ったことを書きます。そして、WRATECをヒントにしてみんなで考えたい問いを立てましょう。

問いを選ぶ

1 朝の活動で問いを選ぶ

皆さんが立てた問いの中から4つ問いを選んでおきました。この中から多数決で、問いを決めましょう。

2 決まった問いについて考えを書く

選ばれた問い「自分の決めた目標は本当にたっせいでできるのか」について自分の考えとその理由を書きましょう。

ポイント・留意点

1 各自が事前に教材文を読むことで、教材文と向き合い、読解に必要な時間を確保することができる。

1 一人一人が教材文の内容を捉え、心に残ったことや疑問に思ったことを書く。その際、WRATECを参考にさせる。そして、問いを立てた理由も書くことで、自分の考えを確認することができる。

1 教師は、出された問いの中から、内容項目や問いの傾向などを考え合わせながら4つの問いを選んでおく。多数決をとることは、みんなで選んだ問いという意識につながる。

2 「分からない」というのも1つの考えであることを確認しておきたい。まとめの際には、この初めの考えと比較し、考えの広がりや深まりに気づくことができる。

本時学習

教材文を読む②

1 教材文の内容を確認する

「もくひょうにむかって『一りん車にのれた』」はどんなお話だったか、挿絵を見ながら確認しましょう。

- ・ゆきさんの目標は、一輪車にのれるようになることですね。でも何度練習してもうまく乗れずにあきらめてしまいました。
- ・クラブ見学の後、「乗れるように頑張ってみよう」ともう一度思ったのですね。
- ・久保田さんがアドバイスしてくれたり、励ましてくれたりして手放して乗れるようになりましたね。

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

2 今日の問いを立てた人から発言する

なぜこの問いを立てたのか、また、あなたはどうかもうか話してください。

3 考えを聞いてみたい人に、コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「これまでに努力したけれどできなくてあきらめてしまったことはあるかな。」

掘り下げの問い②

子供「なぜ目標って必要なのかな。」

掘り下げの問い③

子供「あきらめることは悪いことか。」

掘り下げの問い④

子供「あきらめたことも続けたらできるようになるのではないか。」

掘り下げの問い⑤

子供「あきらめたのにまたやろうと思ったきっかけは何か。」

振り返る

1 ワークシートに書く、発表する

2 全体で振り返りを行う

友達の話をよく聞きましたか。自分の考えを深めることができましたか。安心して話すことができましたか。このことを3段階で振り返ります。

評価の視点と方法

- 「目標に向かって努力すること」について自分の考えを深めることができたか。(発言、ワークシートなど)
- 話し合ったことを実際にやってみようという意欲をもつことができたか。(感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

1 「一りん車にのれた」の主人公「ゆきさん」に起きた出来事とそのときの気持ちを、目標に向かって努力し成功した1つの例として認識できる程度に確認する。

挿絵や心情をあらわす言葉を板書しながら、教材文の流れを確認し、対話の中で各自が必要に応じて教材文を生かす。

3 「目標を立ててもできないことがあるのではないかと不安になるので、この問いをみんなで考えてみたい」を受けて、「努力すればできるのではないか」という意見が出される。

そこで、教師からの掘り下げの問い①で、それぞれが自分のことを具体的に振り返るよう促す。あきらめてしまった例を挙げていくことで、掘り下げの問い②が生まれ、あつて当たり前と思っていた「目標がある意味」について考え始める。さらに掘り下げの問い③と問い④によって、あきらめることはあつてもよいが、また努力すればできることもあるという教材文と関連した発言も出てくる。掘り下げの問い⑤は、友達の経験を聞くことで目標をもち続けることの意味やよさを確認することになる。子供たちから出てくる問いによって、対話が多面的・多角的に広がり、一人一人の思いや新たな考えを引き出していく。

1 自分の考えの変化や新しく気づいたり発見したりしたこと、心に残った言葉などを記録する。

小学校 高学年 実践例

内容項目

正直、誠実 A-(2)

主題名

明るく生きる

教材名

「手品師」(新訂 新しい道徳 6年)

教材文と探究の対話(p4c)

「手品師」は、手品師が男の子との約束を守ること
で自分のチャンスを逃してしまうかもしれないという、
人生における大きな決断の場が描かれている。手品師
は、自分がどう生きるべきかを迷い、悩み、結局、自

ねらい

「探究の対話」を通して、
どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、
明るい生活をしようとする
心情を育てる。



分にとって誠実に生きることを選択する。経験という
視点で、手品師と子供たちとの距離を考えたとき、こ
の教材は、どんな状況でも誠実に生きることを選択す
るという生き方の1つの例として価値があると捉える。

事前学習

問いを立てる

1 「誠実」の辞書的な意味を確認する

次の授業では、「誠実な生き方」について学習しま
す。「誠実」とは「うそや偽りがなく真面目なこと」
です。

2 問いを立てる

自分の生活などを振り返って「誠実」について考
えたいことをもとに、問いを立てましょう。

ポイント・留意点

1 言葉について共通理解を図ること
で、一人一人が問いを立てるための手
がかりをつくる。

2 一人一人が「誠実」ということにつ
いて疑問に思っていることや、みん
なと話してみたいこと(「問い」)を挙
げ、「問い」を立てた理由も書く。「問
い」を回収し、問いの中から教師が4
点ほど選ぶ。

本時学習

問いを選ぶ

1 授業で扱う「問い」を多数決で決める

次の4つの問いの中から一つ、多数決で選びましょ
う。4つ提示する

2 決まった問いについて意見を書く

選ばれた問い「良いうそをついていて、真面目な
人だったら誠実な人と言えるのだろうか。」につい
て自分の考えとその理由を書きましょう。

ポイント・留意点

1 ねらいや学級の実態などを考慮し
て選んだ「問い」について、子供が投
票する。投票は1人2票にして主体的
なかかわりを促す。

2 WRAITECの「もしも～」を活用
した問いである。各自が考えをもって
対話に参加できるように、ワークシ
ートに「今日の問い」に対する自分の考
えと、その理由を書く。

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

2 今日の問いを立てた人から発言する

このような問いを立てたのはなぜ？

3 考えを聞いてみたい人に、発言者が コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「良いうそと悪いうそがあるのですか。うそはうそだ
と思うのだけれど、どこが違うのかな。」

掘り下げの問い②

子供「良いうそをついたのに、相手がそれを悪いうそだと思っ
たら、それは悪いうそになるのですか。」

掘り下げの問い③

子供「例えばどんなうそが良いうそなのですか。」

掘り下げの問い④

教師「小学校のときに、宿題をやっていないのに『忘れた』
とうそをついたことがあります。これはだれも傷つ
いていないうそですが、どっちに入りますか。」

掘り下げの問い⑤

教師「今思う誠実な人、誠実な行動とはどんなものですか。」

教材文を読む

1 「手品師」を読む

大人でも、誠実に生きることに迷うことが
あります。教科書の「手品師」を読んでみましょう。

2 自分の考えをまとめる

読み終わったら、今日の対話で考えたことと合わ
せて、自分の考えをまとめてみましょう。

振り返る

1 ワークシートに書く、発表する

2 全体で振り返りを行う

友達の話を理解できましたか。考えが広がったり
深まったりしましたか。セーフティはありましたか。

評価の視点と方法

- 「誠実」とはどういうことかについて自分の考えを深めることができたか。(発言、感想など)
- 話し合ったことを今後の生活に生かしたいという意欲をもつことができたか。(感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

2 選ばれた問いを立てた人がなぜそ
の問いにしたのかを話し、対話のきつ
かけとする。

3 WRAITEC(例えば、なぜ、もし
も～)を使いながら展開することで、
新しい問いが生まれることがある。

対話は、「誠実と良いうそ・悪いうそ」
の例を挙げながら進んでいく。そこで
教師が掘り下げの問い①によって「良
いうそと悪いうその違い、さらには良
いうそというものはあるのか」を明確に
するよう促す。子供から出された掘り
下げの問い②では、「相手の気持ち」
という点に良いうそと悪いうその判断
が委ねられる。掘り下げの問いを出す
ことで具体例を出したり、経験を自分
の言葉で概念化したりしながら、対話
は多面的・多角的に展開していく。

2 教材文と対話との関連性を伝える
ことにより、関連づけた読み取りが期
待できる。必ずしも教材文の内容につ
いて言及する必要はないが、振り返り
では対話と教材文との関連について書
くこともある。

1 自分の考えが、だれかの意見や資
料でどのように変わったかをワークシ
ートに書く。

中学校 1 年 実践例

内容項目

思いやり、感謝 B-(6)

主題名

その人が本当に望んでいること

教材名

「思いやりの日々」(新しい道徳 1 年)

ねらい

「探究の対話」を通して、本当の思いやりとは何かを理解し、温かい人間愛を深め、だれに対しても思いやりの心をもってともに生きようとする心情を育てる。



教材文と探究の対話 (p4c)

主人公は病気で障がいのある体になってしまった妻の身の回りの世話をし、献身的に支えて生きていこうと思った。妻が少しずつ回復し、主人公は退職を機に介護の仕事を始めるが、その仕事の中で発見したことは「相手に何もかもしてあげるのではなく、その人がで

きることは、何とか自分でこなしてもらうことが思いやりである」という考えである。対話を通して「本当の思いやりとは何か」を深く考え、相手があるからこそ、また愛情が深いからこそ、自分はどの行動したらよいかを多面的・多角的に捉え直すことができる。

本時学習

教材文を読む

1 教材文を読む

今日は「思いやりの日々」という話をもとに「その人が本当に望んでいること」という主題について、みんなで考えます。

問いを立てる

1 問いを立てる

ワークシートに自分の立てた問いとその問いを立てた理由を書きます。それから、A4の紙に横書きで自分の問いを書いて床に置きます。

問いを選ぶ

1 授業で扱う「問い」を多数決で決める

良いと思った問いに2票入れます。

2 決まった問いについて考えを書く

選ばれた問い「思いやりのある行動で相手を思う気持ちを伝えることができるか」について自分の考えとその理由を書きます。

ポイント・留意点

1 主題と教材文の題名を確認したうえで、教材文を読む。本時のねらいと本時で対話する内容の方向性を各自が把握できる。

1 事のとん末を読み取りながら、心に残ったことや疑問に思ったこと、さらには、自分の生活や社会での出来事に思いを至らせ、問いを立てる。

1 多数決をとることでみんなで選んだ問いという意識をもち、主体的に対話に参加できる。

2 自分の考えを書くことで話す準備ができる。「分からない」というのも1つの考えであることを確認しておきたい。まとめの際には、ここで書いた考えと比較することで自分の考えの広がりや深まりに気づくことができる。

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

2 今日の問いを立てた人から発言する

なぜこの問いを立てたのか、また、あなたはどうか考えるかも話してください。

3 考えを聞いてみたい人に、コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「思いやりの気持ちで行動したことが相手に伝わらなかったことはないか。」

掘り下げの問い②

生徒「相手の思いやりに気づかなかったことはないか。」

掘り下げの問い③

生徒「どこまで相手の気持ちを思いやることができるか。」

掘り下げの問い④

生徒「優しさと思いやりは違うのか。」

振り返る

1 ワークシートに書く、発表する

対話をもとに「本当の思いやりとは何か」について考えたことをまとめます。

2 全体で振り返りを行う

「他の人の話が理解できたか」「自分の考えを発言したか」「広く考えたり深く考えたりできたか」「セーフティがあったか」について3段階で自己評価をします。

評価の視点と方法

- 「思いやりの心とは何か」について自分の考えを深めることができたか。(発言、ワークシートなど)
- 「思いやりをもって行動したい」という心情をもつことができたか。(感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

1 ルールの確認は実態に合わせて行うが、一人一人がルールを守ることがクラスの知的セーフティを確保する上で大切なことである。

3 「思いやりのある行動で相手を思う気持ちを伝えることができるか」についてそれぞれの考えを述べていくと、いくつかの共通点やさらに掘り下げて考えたいことが見えてくる。そこで、例えばに当たる掘り下げの問い①を投げかける。受け取る側の気持ちという視点で自分の生活を振り返る機会となる。同時に、掘り下げの問い②によって、実際の例として逆の場合があることも明らかになる。さらに生徒から出された掘り下げの問い③と掘り下げの問い④によってそれぞれが自分の心と向き合うことになる。思いやりをもって行動することは自己犠牲になるのかもしれないのか、相手を思いやるのがどこまでできるか不安になるなどの思いが浮かんでくる。このとき、教材文の登場人物の言葉や気持ちにのせて発言することで、自分の正直な気持ちを語ることができる。

探究の対話 (p4c) では「思いやりの気持ちは、自分だけではなく相手がある」という気づきから対話を掘り下げることによって多面的・多角的に、深く考えることが可能になるという事例である。

1 自分の考えの変化や心に残った言葉などを記録する。

中学校 2年 実践例

内容項目

勤労 C-(13)

主題名

勤労から得られるものとは

教材名 (2時間扱い)

「我、ここに生きる」(新しい道徳 2年)

ねらい

「探究の対話」を通して、勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする意欲を養う。



教材文と探究の対話(p4c)

「我、ここに生きる」は、医学博士となって札幌で開業する夢をもつ主人公が、1年の任期で釧路の赤十字病院分院で働くところから始まる。任期を終えたとき、村の人たちに懇願され釧路に残ることになる。5年後、釧路で仕事をしながら念願の博士号を取るが、チリ地

震の津波被害を受けたことで、札幌に帰らないことを決心する。「人間は自分の魂に忠実に、はじない生き方をするのが大切」という考えを家族も理解する。「働くこと」と「生きること」との関係という視点をもって対話し、勤労について深く考えさせたい。

第1時 学習

教材文を読む

1 本時の主題「勤労から得られるものとは」を確認する

2 教材文を読んで感想を交流する

主人公の生き方や仕事に対する考え方について感想を交換します。

問いを立てる

1 問いを立てる

テーマは「勤労」です。「我、ここに生きる」を読んで考えたり、職場体験で感じたりしたことを踏まえて、疑問に思うことやみんなで考えたいことを問いにします。

問いを選ぶ

1 問いを選ぶ

良いと思った問いに2票入れます。

2 決まった問いについて考えを書く

選ばれた問い「人は何のために働くのだろう」について自分の考えとその理由を書きます。

ポイント・留意点

2 教材文は、6ページと長文である。各自が読んで内容を把握し、考える時間を十分に取りたい。また、事前に内容項目を示すことで、主人公と妻について読み取る際の視点を揃えることができる。

1 ふだん疑問に思っていることや総合的な学習で行った「職場体験」なども念頭におくように助言する。教師は、出された問いの中から、内容項目との関連や同じような問いの傾向などを考慮し、4つの問いを選んでおく。

1 自分の問いが評価されるかどうかと考える生徒もいるので、選ばれなかった問いも対話の中で活用する場面があることを伝えたい。

2 問いを立てる段階で自己内対話は始まり、自分の考えとその理由を明記する段階で、さらに自己内対話が深まる。振り返りで書くまとめとの比較をするうえでも、書くための時間を確保したい。

第2時 学習

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

今日はみんなで選んだ「人は何のために働くのだろう」という問いで対話をします。初めに、ルールの確認をしましょう。

2 今日の問いを立てた人から発言する

3 心情円で自分の考えを表す

「人は自分のために働く」という気持ちを赤色で、「自分以外のために働く」という気持ちを青色で表してみましょう。

4 発言者が考えを聞いてみたい人に、コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「自分のため、自分以外の人のために働くという考えはどこから来ているのですか。」

掘り下げの問い②

教師「職場体験などでは、なんのために働いているという話を聞きましたか。」

掘り下げの問い③

生徒「お金のために働くのはマイナスのイメージですか。」

掘り下げの問い④

生徒「仕事をするうちに人の考えが変わることはないのでしょうか。」

5 心情円で自分の考えを表す

今の自分の考えを心情円で表します。

振り返る

1 ワークシートに書く、発表する

今日の対話で自分の考えがどう変化したか、または、自分の中で確かになったことを書きましょう。

2 全体で振り返りを行う

「他の人の考えと自分の考えを比較しながら対話したか」「自分の考えが広がったり深まったりしたか」「安心して話すことができたか」について3段階で自己評価します。

評価の視点と方法

- 「勤労の尊さや意義」を考え、理解を深めることができたか。(発言、感想発表、ワークシートなど)
- 勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする意欲をもつことができたか。(感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

1 対話するうえで大切なことは、聞くこと、考えること、そして知的セーフティのある中で話すことである。ルールを確認することで、この場にセーフティがあることを再認識できる。

3 心情円で意思表示することにより、現時点での自分の考えを明確にするだけでなく、クラス全体の傾向を把握することにもなる。

4 「なんのために働くか」について「自分のため」「家族のため」「生活のため」「社会貢献をするため」「やりがいのため」「他の人のため」などさまざまな考えが出される。そこで教師からの掘り下げの問い①で、自分の生活を振り返り、考えの根拠をより明確にする方向に対話は進む。また、掘り下げの問い②で、職場体験で学んだことを思い出し、具体的に社会で働く姿をイメージすることができる。さらに生徒の出した掘り下げの問い③で、「働くこと」が「生きる」ことそのものにもなり得ることについて思考することになる。現実的な生活から目を背けずに「生きる」うえで必要な希望や夢とともに「働くこと」を考えることにつながる。生徒の出した掘り下げの問い④は、教材文のエピソードとも関連する。対話が多面的・多角的に広がり、一人一人の思いや考えがそれぞれの中で「今言えること」という自分なりの結論を導き出す。

1 自分の考えの変化や新しく気づいたり発見したりしたこと、心に残った言葉などを記録する。

中学校 3年 実践例

内容項目

感動、畏敬の念 D-(21)

主題名

神秘の世界へ

教材名

「ハッチを開けて、知らない世界へ」(新しい道徳 3年)

ねらい

「探究の対話」を通して、美しいものや気高いものに感動する心確かめ、人間の力を超えたものに対する尊敬の心情を育てる。



教材文と探究の対話(p4c)

宇宙飛行士野口聡一さんの文章である。子供時代の「遠くへ行ってみよう」という思いは「空よりももっと遠くの宇宙という場所に行ってみよう」という願いとなり、長い訓練の末に、宇宙飛行が実現する。行かなければならなかった、命の気配がしない宇宙

空間で、地球に生命を感じたがゆえに「地球は美しい」と語る。文章から想像する未知なるものへの思いと画像を、対話で共有し、自然と生命に対する感動と畏敬の念を深めさせたい。

事前学習

教材文を読む

1 写真資料等の提示と紹介(理科)

理科では、「地球と宇宙」について学びます。宇宙から見た地球、地球から見た宇宙の写真を掲示しましたので各自感想を確かめておきましょう。

問いを立てる

1 教材文を読んで問いを立てる(家庭学習)

ワークシートには自分の立てた問いと、問いを立てた理由を記入してください。

本時学習

問いを選ぶ

1 写真資料を再度確認し、授業で扱う「問い」を多数決で決める

次の4つの問いの中から1つ、多数決でみんなと話し合いたい問いを決めます。

2 決まった問いについて意見を書く

選ばれた問い「なぜ地球は美しいのか」について自分の考えを書きます。

ポイント・留意点

1 理科で学習する「地球と宇宙」に関する知識を踏まえて、写真資料を見ることは、野口さんの願いの一端を知ることになるであろう。宇宙に対する、または宇宙の中の地球に対するそれぞれの思いをもたせたい。

1 宇宙について、写真を見た感想やふだん疑問に思っていることも含めて問いを立てさせる。翌日ワークシートを回収しておく。授業までに、内容項目との関連を考慮して問いを4つに絞っておく。

ポイント・留意点

1 「感動、畏敬の念」という内容項目であることから、写真を見て驚きや感動を味わう時間も大切にしたい。

2 ここで出された「なぜ」という疑問は、生きることについて考える際のスタートである。子供たちの「不思議に思う気持ち」を大事にしたい。

探究の対話を行う

1 ルールを確認する

2 今日の問いを立てた人から発言する

なぜこの問いを立てたのか、また、あなたはどうかを話してください。

3 発言者が、考えを聞いてみたい人に、コミュニティボールを回していく

掘り下げの問い①

教師「美しさとは何ですか。色の美しさというのがありますが、野口さんが話している美しさとはどんなものの美しさなのでしょう。」

掘り下げの問い②

生徒「もしも、地球に生物が住めなくなったら、もう地球は美しくないのでしょうか。」

掘り下げの問い③

生徒「宇宙から見た地球の存在とは何でしょう。」

振り返る

1 教材文をもう一度読んで、ワークシートに振り返りを書き、発表する

今日の対話で自分の考えがどう変化したか、または、自分の中で確かになったこと、印象に残った言葉、さらに探究したいことなどを書きましょう。

2 全体で振り返りを行う

「他の人の考えと自分の考えを比較しながら対話したか」「WRAITECを使いながら対話を深めることができたか」「自分の考えが広がったり深まったりしたか」「安心して話すことができたか」について3段階で自己評価します。

評価の視点と方法

- 「神秘の世界へ」とはどういうものの見方なのかを考え、理解を深めることができたか。(発言、ワークシートなど)
- 対話を通して、宇宙の中に存在する地球に対する「感動、畏敬の念」について考えることができたか。(感想発表、自己評価など)

ポイント・留意点

1 ルールを確認することで、知的セーフティが必要であることを再認識し、文章を読んで、または写真を見ることで得た、互いの感動も共有できる場を作りたい。

2 選ばれた問いを出した人がどのように文章を読み取り、考えたのかを知ると同時に、問いが生まれた前提や経験を理解することにもつながる。

3 初めの問いについて「美しい」という言葉を使ってそれぞれが意見を述べる。教師からの掘り下げの問い①で、宇宙から地球を見た経験のある野口さんの言う「美しさ」について確認をし、宇宙の中にある地球を想像しながら考えることを促すことができる。掘り下げの問い②で、地球で生きる命、人が地球で生きることの意味にまで言及することになる。さらに、掘り下げの問い③で、空気もなく、音もなく、無の空間ともいえる宇宙の中に、1つの星として存在する地球を生命体と捉えることの意味を考えることになる。野口さんの思いに共感し、宇宙に対する互いの考えや思いを対話することで多面的・多角的に視野は広がり、神秘の世界で生まれた命の大切さに気づき、感動や畏敬の念を抱くことにもつながっていく。

1 もう一度教材文を読むことで、野口さんの言葉がもつ意味の理解に変化があると予想される。自分の考えの変化や新しく気づいたり発見したりしたこと、心に残った言葉、さらに追究してみたいことなどを記録する。

Q1 探究の対話 (p4c) が最も大切にしていることは何ですか？

A1

p4cのエッセンスは、探究の源である「ワンダー」（不思議に思う気持ち・疑問・問題意識）を大切にすることです。

子供と教師が円座になり、子供が立てた「問い」で対話し、「問い」を掘り下げながら、互いの考えを深めていきます。その学習スタイルの基盤は、「何を話しても、周りの人がしっかりと話を聞いてくれる」という安心感（知的セーフティ）を構築することにあります。p4cは「思考とコミュニティ」の両面から探究の学びを展開していきます。



Q2 探究の対話 (p4c) の始め方について教えてください。円陣の形態やコミュニティボール (CB) の扱いは全学年共通でしょうか？

A2

円形になることと、コミュニティボール (CB) を使うことは、p4cを行う際の基本です。この2つが、安心感（知的セーフティ）を生み出す要素として大きな働きをするからです。

円形になるのは、互いの表情を見てリラックスしながら、それぞれの考えを聞き合うコミュニティを大切にしようとする心情を養うためです。また、円形による話し合いは、一人一人に発言する時間や空間をしっかりと確保することにもつながります。

子供たちの中にセーフティのあるコミュニティが構築されていくことで、ふだんの授業や生活においても他者理解、自己理解、人間理解が進むと思われます。

p4cを始める前に、CBを学級の全員で作ります。

円になり、一人一人が自己紹介をしながら、円筒に毛糸を巻いていきます。

対話におけるCBの役割と必要性は、

- 話し手がだれか分かる
- 持ったときの安心感がある
- 「みんなの心を集めて作ったボール」という意識が生まれ、愛着をもつようになる
- 次の人に対話のバトンを渡すイメージがもてる（相手を指名する責任）
- 相手の気持ちを考えた「言葉のキャッチボール」という学習方法が自然に身につく（リスパクトする気持ちの醸成）

などです。

CBは、子供の発言を保障し、コミュニティの一員としての意識を高める大事なツールと言えます。

Q3 p4cのルールはどのように扱いますか？ なぜ、ルールは必要なのでしょうか。その効果についても教えてください。

A3

p4cには、4つのルールがあります。ファシリテーター (FA) は対話の前に、このルールを確認します。

1 ボールを持っている人だけが話せる

・話を聞く姿勢が育ちます。考えながら聞くようになります。

2 まだ話していない人にボールを回す

・できるだけ多くの人の考えを聞くことを大切にします。

3 話せないときはパスができる

・話さなくてもよいという安心感がもてます。
・聞くことが大切という意識をみんなで共有することができます。

4 相手を傷つけるようなことは言わない

・話を最後まで聞いてもらえることが分かり、自分の考えを話すことに自信がもてるようになります。
p4cでは、互いの考えを聞き、相手に対して

尊敬の気持ちをもたせるために、ルールを守ることが重視します。聞いてもらえるという安心感がわくことで、探究への関心が高まります。そして、何よりも対話をするコミュニティに互いを尊重し合う柔らかな雰囲気が広がります。

幼児期から大人まで、p4cのスタイルに段階はありませんが、ルールについては、発達を考えた提示の仕方があります。低学年における提示について紹介します。

- ① ボールをもったひとだけがはなせる
- ② はなしていないひとにボールをわたす
- ③ おはなしできないときはパスをする
- ④ ともだちがいやがることはいわない

発達の段階に合わせて、分かりやすい表現を工夫して提示すると良いでしょう。

Q4 「考え、議論する道徳」に「探究の対話 (p4c)」の手法を活用する場合、年間指導計画における配置はどうすればよいのでしょうか。

A4

学習指導要領が求める「考え、議論する道徳」は固定化された概念や型で行うものではなく、発達の段階や道徳の特性を生かした柔軟な学習プロセス及び指導方法の工夫・改善を重視することによって実現されていくと考えます。教師が内容項目を指導するような一方向からの授業展開から脱却し、できるだけ質の高い多様な指導方法に改めていきたいものです。

p4cは指導方法の1つですから、年間指導計画の配置に大きな影響を与えるものではないと言えます。ただし、本時の前に事前学習を取り入れ

る、2時間扱いにするなどの授業構想を考えることで、指導方法の可能性が広がります。

年間35時間の指導計画全てでp4cに取り組む必要はありませんが、道徳科の授業改善に向けて大切なことは、子供が自ら問いを出し、子供同士で対話をしながら探究する学びのプロセスです。答えが1つではない、悩みがある「問い」を積極的に取り上げ、「多面的・多角的に考える力」「自ら問題を解決する力」を育みながら、子供たちに「探究する楽しさ」を味わわせましょう。

Q5 子供たちが立てる「問い」が魅力的だと感じます。具体的にどのようなやり方で問いを立てさせているのでしょうか。

A5

p4cは問いを立てることを大切にしています。問いを立てるときから自己内対話は始まります。また、全員の参加意識を高めることができます。

中学校の実践例では、どれも教材文を読んでから「問い」を立てさせています。

中学校2年の実践例（→p.14-15）についてです。内容項目は「勤労」、教材文は「我、ここに生きる」で、2時間扱いとしています。1時間目は教材文から「主人公の生き方を通して勤労の尊さや意義」について考えさせた後に、「教材文を読んで考えたり、職場体験で感じたりしたことを踏まえて、疑問に思うことやみんな考えてみたいことを『問い』にします。」と投げかけ、ワークシートやノートを渡します。ここでは、自分で立てた「問い」について理由を書かせることがポイントです。次に、多数決（1人2票）などで第2時の「問い」を決定します。「問い」が決まったら、自分の考えをワークシートに書かせます。ファシ

リテーター（FA）は2時間目の対話に向けて、事前に生徒の考えに目を通し、内容を把握しておきます。教師の意図を明確にもちましょう。

内容項目、主題名、教材名などから問いを立てさせる例もあります。

例えば、小学校低学年の実践例（→p.6-7）では、ねらいとする内容項目の「親切、思いやり」を、子供たちが自分たちの生活を振り返ることで、「親切」についての問題意識をもち、熱心に自分の疑問と向き合うことができました。

小学校中学年の実践例（→p.8-9）では、家庭学習で教材文を読み、みんなで考えてみたい「問い」を立てさせたところ、選ばれた「問い」は『自分の決めた目標は本当に達成できるのか』になりました。このように、下学年のときから「問い」を立てる練習を積み重ねていくうちに、「生きる」こととかかわる「問い」を立てることができるようになります。

◆ワークシート例（中学校2年実践例から）

<第1時「問い」を考えるワークシート>

道徳でp4c	年 組 名 前
1 主題名 …「勤労から得られるものとは」	
2 教材名 …「我、ここに生きる」	
3 教材文からや感想交流を通して感じたこと	
4 自分が立てた問い ○クラスの皆と話し合ってみようことを書きましょう。	
5 問いを立てた理由 ○悩んでいること、考えていることや聞いてみたいことなどを理由とともに書きましょう。	
6 みんなで選んだ問い ＜人は何のために働くのだろう＞	
7 選んだ問いに対する自分の考え ・他の人が喜んでる姿を見たいから。そして、自分のためでもある。精神的な面も関わっていると思う。	

<第2時 対話で使うワークシート>

道徳でp4c	年 組 名 前
1 テーマ「勤労」	
2 みんなで選んだ問い ＜人は何のために働くのだろう＞	
3 自分の考えの広がりや深まり（感想） ・働くのは生きていくためだと思っていた。職場体験での従業員の人は、自分のためだけでなく、やりがいをもって働いていた。それがやがて人のためになると感じた。○ ○さんの「一生懸命に働くのはいいことだ。」という発言が心に残った。	
4 まとめ ◆自分の考えを話しましたか。 A B C ◆友達の考えをよく聞きましたか。 A B C ◆考えが広がったり深まったりしましたか。 A B C ◆新しい気づきはありましたか。 A B C ◆安心して参加できましたか。 A B C	

Q6 対話の中で深く考えさせたいとき、「WRAITEC（ライテック）」は、どのように使うのが効果的でしょうか。

A6

WRAITEC（ライテック）は、深く考えるための対話ツールキットです。対話の中でWRAITECを活用し、子供たちの探究力を育てていきます。

W： どのような意味かな？（意味）

R： なぜそう思うの？（理由）

A： それって当たり前かな？（前提）

I： もし～なら～ということになる？（推論）

T： 本当にそうかな？（真実、事実性）

E： 例えば？ 証拠は？（事例、証拠）

C： でも、こういうこともあるのでは？（反例）

これらの言葉の活用によって「できるだけ全員が参加していろいろな意見を聞く」「友達の話をよく聞き、その考えに対して自分の考えをもつ」「分からないことを質問して確認する」という流れを作り出すことが可能になります。つまり、対話ツールキットは、友達の考えと自分の考えをつなぎ、「対話によってそれぞれの思考を深める場」を生み出すことになります。

WRAITECの使い方は、次のとおりです。

◆問いを立てるときに

・「なぜ」「どうして」「もし」などの言葉を使って問いを立てさせます。

◆子供たちが互いの考えを深めるときに

・子供自らが、違った視点からの問い、みんなの考えの前提は何かと考える問いなど、ライテックを使った問いを出し、対話を深めようとするのが望ましいと考えます。

◆ファシリテーター（FA）が掘り下げの問いを出すときに

・初期の段階では、ファシリテーター（FA）が掘り下げの問いを出すこともありますが、対話を進める上で、子供たちの中から、ライテックを使った問いが出されるときもあります。FAは、それを聞き逃さず、ねらいに沿って掘り下げていきます。本冊子では、実践例の中で、実態に合わせたWRAITECの使い方を提示しています。

Q7 円座になって話す子供たちの表情がとても生き生きとしていますが、なかなか話せない子供はいないのでしょうか。

A7

子供たちは、コミュニティボール（CB）を持つと「なんだか安心する。」と感想を述べています。また、ふだんなかなか話すことができない子供も、回を重ねるうちに話すようになりました。聞いてもらえるという安心感（知的セーフティ）があるからです。日常的に立ち歩くことが多かったり、絶えずおしゃべりをしていたりする子供が、自分の話を聞いてもらえるということが分かり、聞く姿勢がもてるようになったという事例もあります。

対話をしている間、「CBを持ったまま考えている、周りの子供たちはそれを待っている」という光景がときどき見られます。ファシリテーター（FA）は、その様子を「話したいという意思表示」と捉え、待っている子供たちの「友達の意見を聞こうとする姿勢」を高く評価します。振り返りの中で「今度は、自分の考えをもっと話したい。」と書く子供もいます。実際に次の機会には、その目標を大筋達成するようになります。

Q8 授業のまとめとして書かせるときに、あまり書けない子供はいませんか。もし、そういう子供がいたら、どんな手立てを取りますか。

A8

授業の振り返りでは、「今日の対話で印象的だった意見や、〇〇さんの意見で自分の考えが変わったということ、新しく気づいたり発見したりしたことがあったら書きましょう。」と伝えます。書く分量が問題ではないことは言うまでもありませんが、書く段階（振り返り）も思考の場と考えます。

「書く」ことを大事にするのは、対話を振り返りながら自分の考えを整理したり、読んだ教材をもとに、更に一步考えを深めたりできる機会だからです。したがって、日頃の様子から判断して必要

のあるときは、「自分の考えが初めと比べてどうなったか書いてみましょう。」「だれの考えが良かったか、理由を書いてみましょう。」「対話を通して確になったことは何ですか。」などと支援します。

小学校低学年の実践例（→p.6-7）では、主題名「親切にするよさ」について対話をし、ノート最後に、心に残った一言を書かせました。子供たちは「温かい心」「相手への気持ち」「親切は大切」「笑顔にする」「相手がうれしいと自分もうれしい」と記述しました。

Q9 振り返りは、評価にどのように生かすのですか。また、何について評価するのですか。

A9

振り返りも思考の場です。振り返ることで自己内対話し、考えを整理したり深めたりしながら書くことになります。

道徳科における評価は、道徳性を養うためのものです。道徳科に評価規準はありませんので、ねらいをゴールとした評価は行わず、一人一人のよさを認め、励ます評価にします。



▲子供たちが立てた問いを入れるワンダーボックス

教師の意図を大事にしながらも、授業中の学習状況や成長の様子を評価することが基本です。評価の視点は、「道徳的価値に

ついて多面的・多角的に考えていたか、自分で深めていたか」などです。

「探究の対話（p4c）」については、①自分の考えを話したか ②友達の考えを良く聞いたか ③考えが広がったり深まったりしたか ④新しい気づきや発見があったか ⑤安心して参加できたか ⑥友達の考えに反応したか などの視点でワークシートに自己評価させ、全体では挙手によって評価します。

ただし、本時のみで評価するものではなく、ワークシートをファイルに保存し、ポートフォリオ的に評価するのが良いでしょう。

記述を蓄積することで、教師が学びの様子を評価できるだけでなく、子供一人一人が自身の伸びや成長を実感することができます。

道徳で

探究の対話（p4c）を始めよう
～対話の力と探究心を育もう～

校閲・執筆者

校閲 のざわよしてる
野澤令照
宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー・所長

執筆 たかはしたかこ
高橋隆子
宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー・特任准教授

いさご
砂金みどり
宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー・探究の対話マイスター

編集：東京書籍 編集局 道徳編集部

編集協力：株式会社エディット（塚本鈴夫、緑川恵美、水嶋亜実）

デザイン：中島由希子

イラスト：チョッちゃん

子どもたちの未来を拓く「探究の対話 (p4c)」シリーズ 『子どもの問いでつくる道徳科 実践事例集』

宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー 著 / 野澤令照 編



子ども一人一人に対するリスペクトと信頼を実感できる「探究の対話 (p4c)」は、まさに道徳教育の夢を形にする具体的な取り組みです。そして、教室のセーフティを実現しつつ傾聴や対話へつなぐ実践には、新たな学びの基盤となる大きな可能性があります。

本書では、今求められている新しい道徳の授業をつくる際に役立てていただけるように、小学校1年から中学校3年までの実践事例を紹介しています。

2019年11月発行 B5判 120ページ 本体価格 2,000円(税別)



本社 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1 TEL: 03-5390-7362 (道徳編集部) FAX: 03-5390-6014
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/> 教育資料データベース 東書 E ネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>